

免許外指導でも質の高い授業を行うために

副題

～免許外並びに複式授業でのICTを活用した指導方法の
実践的研究～

キーワード

免許外指導・複式

学校名

在インドネシア日本国大使館付属バンドン日本人学校

所在地

JL.Ciumbuleuit No,199 Bandung 40142 Indonesia

ホームページ
アドレス<http://www.bjs.sch.id>

1. 研究の背景

本校は、インドネシア・バンドンに位置する日本人学校である。現在小学部 6 学年 9 名、中学部 3 学年 4 名の 13 名を校長含め 7 名の教員で指導している。学年数 8 に対し、教諭数 6 であり、2 学年 1 クラス編成となり、教科指導についても国語・算数(数学)・英語以外は、複式での対応となっている。小規模校故に財政厳しく、PC環境も児童が使えるのは、デスクトップ 2 台とタブレット 1 台、足りない分は、教員のパソコンやタブレットを使用するほど、非常に脆弱である。教員数が少ないため、小中にわたる教科担当制で授業を受け持つため、免許外指導(小学校免許しかない教員が、中学国語、美術を教える。その反対もしかり)が学年によっては時間数の過半数になることもある。専門性のない教員の指導は、特に中学校教科において、専門的に指導してきた教員のそれと比較して実際指導力の低さは否めない。

そのような中でも、教員は每晚遅くまで教材研究に励み、少しでも子どもたちに楽しい授業を、学力をつけようと努力してきている。平成26年度から、「表現力の育成」を中心目標に、教員全員が1回ないし2回の研究授業を公開し、事前討議、事後討議を重ねながら、「少人数だからできること」を合言葉に、教師個々人の授業力の向上を図ってきた。

2. 研究の目的

本校の課題である「教科外指導」による授業の質の問題を解決し、子どもたちの実態から定めた研究課題「少人数を活かした表現力の育成」を継続して推進していくために

- デジタル教科書や学習者用デジタル教材を活用する少人数授業の指導方法の確立
 - ICTを活用したプレゼンテーションスキル育成
- を目的とし、授業研究を通じた実践的検証を行う。


3. 研究の方法

「ICT機器を活用した授業研究」を、校内の研究内容に位置づけ、平成26年度より実施している校内研究授業で授業を公開し、その成果と課題について議論を深める。さらに、授業後、実際にICTの使用方法を研修する場を設け、ICTを活用した授業実践を学校全体に広げ、より活用方法を見つける。

4. 研究の内容・経過

平成27年度の校内研究授業の中で、ICT機器を活用した授業実践は以下の5件(授業実践自体は、9件)

実践名	内容	○成果と▲課題
<p>小学校3学年算数科「かけ算」</p>  <p>友達の考えについて話し合う</p>  <p>複数の考えを並べ比較する。</p>	<p>電子黒板機能付きプロジェクター(EPSON EB536WT)と、マイクロソフト Surface と OneNote を活用して、児童が OneNote に書き込んだ自分の考えを、プロジェクターで投影し、比較検討させる授業を行った。</p>	<p>○一人1台の Surface を使えたので、個人の考えがノートのように蓄積され、プロジェクターも一人の考えを大きく映し出したり、2つの考えを並べて比較できたりと、児童の思考をサポートする授業を行うことができた。</p> <p>▲電子黒板機能で書き込むと、次の場面でもそれがそのまま残ってしまう。そうならないために消去して次のものを映す形になるが、そうすると学びの履歴を残すことができない。</p>
<p>中学校第3学年社会科「公民：経済プレゼンテーション 20年後の私たちと日本」</p>  <p>資料を見せながらプレゼン</p>	<p>教科書に掲載されている資料や、インターネットから集めた資料を元に、自分の考えをプレゼンした。ICT機器としては、プロジェクターとSurfaceを活用した。OneNote を使って、取り込んだグラフをホワイトボードに掲示するように配置し、そこに自分の考えを、様々な色や線の太さを工夫しながら資料を作成し、発表することができていた。</p>	<p>○資料に直接書き込んだり、ラインマーカー的に線を引いたりして、論理的で印象に残る発表を行うことができていた。</p> <p>▲電子教科書がないので、教科書の資料をスキャンして与える手間が非常にかかる。</p>  <p>矢印などを資料に書き込んで論理的に説明する。</p>
<p>小学校第4学年理科「からだのしくみ」</p>  <p>映像に気付いたことを書き込む</p>	<p>授業内で、NHKの映像クリップを活用。プロジェクターでホワイトボードに映し出した映像を止めて、そこに気付いたことを書き込んだり、ポイントとなる部分を何度も再生したりして、映像資料の活用方法を検討した。</p>	<p>○ありがちな「映像を見るだけ」の授業ではなく、授業の中でいつ、どのように映像を活用するのか、検討できた。</p>

<p>小学校第5学年国語科「調べたことを発表しよう」</p>  <p>推敲し、 unnecessaryな箇所を削除</p>	<p>資料から読み取り、自分で書いた原稿を、黒板に映写して、その場で教師が用意した資料と比較し推敲するという授業。</p>	<p>○本校に多い一人クラスでの授業で「いかに自分の考えを他のそれを比較検討するか」というテーマで取り組めた。自分で書いたものと他者のものを黒板上で客観的に比較できた。</p> <p>▲卓上のプロジェクターなので、正面に立ちながら、記入するということが難しかった。</p>
<p>小学校第5・6学年音楽科「和音を感じよう」</p>  <p>アプリで和音を入力する</p>  <p>作った和音を発表し、聴きあう。</p>	<p>フリーの音楽編集ソフトを活用し、一人1台の Surface でオリジナルの和音を組み合わせる授業。本校の課題である免許外指導である音楽科。ソフトを活用することで、子どもたちがしっかりと学習内容を理解し、取り組むことができていた。</p>	<p>○免許外指導のサポートにソフトウェアが活用できるよい一例となった。</p> <p>▲今回フリーソフトを見つけて授業を行ったが、やはり見つけて試してというところで、大きな時間と労力を要した。ある程度、アプリケーションについては、市販にあるもので実績のあるものを購入しておくほうが、活用される機会も増えると考えます。</p>

5. 研究の成果

4 研究の内容で述べたように、今年度は5点の実際にICT機器を活用した授業実践を行うことができた。算数科、社会科、音楽科、国語科、理科と教科についても様々な教科の特性を生かした取り組みが見られた。子どもたちの表現力、思考力を育成するツールとして、プロジェクターやタブレットパソコンを活用した授業が、これまでより多く見られるようになってきたことが最大の成果である。一方で、予算の制約もあり、デジタル教科書をはじめ、ソフトウェアの整備は進めることができなかった。そのため、教科書の資料をスキャンして使う必要があったり、インターネットでアプリケーションを探す時間が大量にかかったりと、教師支援という視点では、まだまだ改善の余地があることもわかった。

6. 今後の課題・展望

今後の課題及び展望としては、小規模校だけにタブレットパソコン4台である程度、一人に1台の授業が実施できてはいる。しかし、より今回整備できたICT機器を活用するためには、ソフトウェアの充実が必須である。デジタル教科書の整備も進めたいところである。免許外指導の課題を埋めるためには、ある程度実績のあるアプリケーションを用意し、

それを使うこなせるように学校として研修を重ねていく方向が望ましいと考える。また、本校は小規模校ゆえ、複式の授業がある程度存在する。複式の課題としては、異なる学習内容が同教室で行われているために起きる「待ち」の時間である。それが、ソフトウェアを活用し、「自分」で学習する習慣、例えば、漢字の学習や、計算問題などできる環境ができれば、それもICTを活用した複式授業の課題克服につながると考える。

7. おわりに

今回、貴財団より助成を受けることで、財政難により整備ができていなかったICT環境を劇的に改善することができた。国外であっても、国内の児童生徒が当たり前のように行っている授業もその一端で行うことができるようになった。本当に感謝している。一歩前に進めた分、これから先に待つよりよい教育環境に至るまでの課題が見えてきたのも事実である。

ICTが、本校のような小規模の在外教育施設にとって、大きな課題である免許外指導や、複式授業の在り方の改善に大きく寄与することは明らかであり、今後も研究を進めていきたい。

来年度についても、申請を行っているところではあるが、是非継続的にご支援をいただけるようお願いしたい。